

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671400194		
法人名	社会福祉法人 東紅会		
事業所名	グループホームおとひめ		
所在地	徳島県海部郡美波町西河内字丹前99番地		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温暖な気候で、海、山、川と自然環境に恵まれたところにあり、地域や近隣と交流しやすい環境にある。地元近隣の職員が多く勤めており、馴染みの言葉や生活習慣を大切に、家庭的な雰囲気の中、利用者本位のサービスを提供している。法人本体に特別養護老人ホームやグループホームなどの併設の事業所があるため、緊急時の対応や状況に応じた協力体制が整っている。地域の行事(夏祭り秋祭り運動会やイベント等)には積極的に参加し、交流を地域住民との深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に林の広がる自然環境の豊かな場所に位置している。地域の海や山、里で採れた食材を毎日の食材に活用しており、利用者の親しんできた調理方法を取り入れるなどして食事を支援している。建物内は広く、利用者は車いすやシルバーカーで事業所内や併設の他サービス事業所の利用者との交流を楽しんでいる。災害時に備え、地域の消防団や住民の協力を得ている。また、職員は、サービスの質の向上や自らの技術の研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 1ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全体が理解し、事業所の基本理念を作り、毎日の朝礼や随時のカンファレンス等で理念を踏まえながら話し合い、意識統一を図り、ケアに活かしている。	代表者や管理者、職員間で話しあい、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。毎朝、職員間で確認しあって意識の統一化を図り、日ごろの実践へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所へ散歩に出かけたり、近隣の人達と挨拶を交わすなど交流を図っている。また、地域の祭り等には積極的に参加し、事業所の催し時には地域の住民やボランティアが参加してもらい交流を深めている。	利用者と職員は、散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、地域の神社の清掃活動へ積極的に参加したりしている。また、地域の祭りや幼稚園の運動会へ参加したり、事業所主催の行事に住民やボランティアへ参加を呼びかけるなどして、双方向的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な行事や催しに参加しながら認知症ケアの相談に応じたり、理解が得られるように努めている。また、気軽に相談に訪問できるような窓口作りにつとめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は個別に開催し、現サービス状況の報告し、話し合いのみにとどまらず、意見や要望を出していただき、サービスの向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の実情を報告したり、災害時の対応等について活発に意見交換を行ったりしている。出された意見は、全職員で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町より保健福祉課、住民室の代表者が運営推進会に参加され、事業所の実情やケアサービスへの取り組みを伝え、情報交換を行っている。また、行事参加を勧め、職員や利用者との交流を図っている。	職員は、町担当窓口へ出向いて、事業所の実情や取り組みを伝えている。また、電話で相談行って指導を得るなど協力関係の構築に努めている。事業所の会議や行事に参加してもらい交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや職員研修を通じて職員の正しい理解を深め、利用者1人1人の行動パターンを知り、身体拘束をしないケアを徹底している。また、職員間の日々の関わり方をお互いで点検して対応の徹底を図っている。	全職員で、リスク管理等について話しあい、見守りや工夫を徹底することで、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。併設事業所と連携を図り、施錠することなく、利用者一人ひとりの自由な暮らしを実現するための支援に取り組んでいる	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修や日々の話し合いを通じて職員の理解を深め、意識付けを図りながら、虐待が見過ごされることがないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 1ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を通して、日々の話し合いを通して理解を深められるようにしている。また、職員や利用者、家族の目の届くところに掲示し、内容を確認出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をとって丁寧に説明し、内容を理解した上で同意が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族には手紙や電話を通して交流を図り、面会時等に気軽に話せるような雰囲気作りに留意している。また、運営推進会議への参加や他部署職員が意見を聞き入れ、運営やケアに活かしている。	毎月、担当職員が家族へお便りを送付して、利用者の様子を伝えている。家族の来訪時には積極的に話しかけ、意見等を表出しやすい雰囲気づくりに留意している。また、意見箱を設置しており、出された意見や要望等は、日々のケア会議の機会に話しあって運営面へ反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会、個別に話を聞く機会を持ち意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。	日々のケア会議の機会に職員の気づいたことやアイデアを出しあって話しあい、運営面へ反映させている。管理者と職員が個別に話しあう機会を設けており、サービスの質の向上や働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々に実践目標を立て、それを実践し、達成できるようそれぞれが努力している。事業所では、各外部研修等を積極的に取り入れる等、資格取得を応援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外に研修には多くの職員が参加できるように努力している。また、研修後は職員会議やミーティングで発表したり、研修報告書にて全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他小規模多機能事業所への見学や他事業所との相互研修会を通して外部の同業者との交流を図り、経験をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 1ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談では、本人の話をゆっくりよく聴き利用者の不安や困っている事を理解し、生活状態を把握するよう努め、安心してよりよい信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を前提とした話をするだけでなく、家族の心情を思いやってゆっくり話を聴き、安心して次の段階の相談へつなげるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、事業所だけでは抱え込まず、他の事業所及び社会資源を出来るだけ活用し、本人にとって何が一番必要なサービスであるかを見極めて調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者に対する敬いの心を持ち、昔ながらの伝統文化暮らしの知恵について教わり、一緒に支え合いながら生活している。また、利用者の特技を活かし、個々の得意分野で力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が何でも話やすい雰囲気を作り、職員と家族間で情報の共有を図りながら、協力して一緒に支える関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問や外出支援利用時に行きつけの理髪店、美容室を利用したり、馴染みの知人や友人に会う機会を持ったりし、継続して、継続して交流が図れるようにしている。	利用者一人ひとりの馴染みの理・美容院の利用や地域のお祭等の行事への参加を支援している。また、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、これまで取り組んできた菜園づくりや将棋、編み物等の趣味を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲の善し悪しや孤立感が生じないように配慮し、利用者同士の関係がうまくいくように職員が仲立ちとなって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 1ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られたり、退所された方でも行事に参加していただいたり気軽に事業所に遊びにきていただけるような雰囲気作りを普段から心がけている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活背景やニーズを把握した上で利用者にとって何が最も良い生活課題検討し、プランに反映している。また、意思疎通が困難な方には日々の生活から真意を汲み取り、家族や周りの人に協力をいただいている。	日ごろから、職員は、利用者自身による意思決定の場面を設けるよう留意している。利用者一人ひとりの表情や些細な仕草等に配慮しつつ、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時、面会時、訪問時等、プライバシーに配慮しながら情報を得てケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が気付きの目を養いながら、利用者一人一人の生活リズムを把握し、常に情報を共有して利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、利用者、家族、必要関係者と話し合いながら特性を活かした居宅計画や介護計画を作成している。	本人や家族の意向を把握して全職員で話しあい、本人の望む暮らしの実現に向けた介護計画を作成している。毎月、モニタリングを実施している。介護計画は、定期的に見直しているが、状態の変化に応じてそのつどの見直しも行っている。利用者一人ひとりの現状に応じた介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援経過記録や介護日誌、生活のチェック表、日々の申し送りを通して情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性を活かし、本人や家族の状況やニーズの変化に対応できる限り臨機応変なサービス支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 1ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望に応じ、公共施設を利用したり、警察や民生委員等に事業所に来所していただき交流する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に受診について説明、希望に応じて馴染みのかかりつけ医や協力医での医療が安心して受けられるよう支援している。また、協力医療機関の医師をかかりつけ医とする場合には、同意と納得を得ている。	利用契約の段階で、医療機関の受診に関する説明を行っている。利用者一人ひとりが安心して医療を受けることができるよう、かかりつけ医の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、日々のケアや訪問介護等、介護職員と連携を密に取りながら健康管理や医療面での相談・助言対応し、かかりつけ医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院や協力医療機関や家族と連携を取り、できるだけ本人に負担がかからないような支援を行っている。また、入院時も頻りに職員が見舞いながら回復状況を把握し、退院時も速やかな退院に結びつくよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大切に、事業所でできる支援を適切に見極めながら話し合い、医療関係者、他の事業所等と連携を図りながらチームで支えていくよう努めている。	契約時の段階で、利用者や家族に重度化や終末期の方針に関する説明を行っている。本人や家族、医療関係者、職員間で方針の共有化を図っている。本人や家族の意向を大切に捉え、医療関係者と連携を図ったうえでチームによる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所全体で殆どの職員が普通救命講習を受けており、ケガ、転倒、意識不明等の対応を熟知している。また、受講出来ない職員も常日頃マニュアル等使用し、看護師による研修等で熟知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と合同で避難訓練を実施したり、消防署の協力を得て消火訓練等を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議や催しを通して近隣の家族さんや地域住民の方々にも協力を呼びかけている。	消防署や消防団の協力、指導を得ている。全職員が災害時の避難方法を習得することができるよう、日中と夜間を想定した訓練を実施している。また、食料品等を備蓄したり、自家発電装置を整備したりして災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 1ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会やミーティングの折に、利用者の尊厳と権利が守られるよう話し合ったり、日々のかかわり方をリーダーや職員間で常に確認しあっている。	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうことのないような言葉かけや対応を心がけている。日ごろの利用者との関わり方について、つねに職員間で話しあって支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で職員が気付く視点を持ち、自然に自利用者が自己決定できるように心掛けたり、個々の希望が引き出せるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズム、ペースがあるため、出来るだけ何事にも時間をゆったり持つよう心掛け、希望に添った個別ケアができるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の日々の表情に気遣って声掛けし、普段着、外出時等その人らしさを大切にしたい髪型や服装、おしゃれが出きるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備をしたり、一緒にいただいたり、楽しい雰囲気作りが心がけている。また、また、嗜好調査等も実施し個人の好みや食事習慣の等の把握に努めている。	食材に旬の食材を用いたり、温かい料理を提供したりしている。利用者と職員は、ともにテーブルを囲んでおり、和やかな雰囲気の中食事を楽しんでいる。また、利用者は、一人ひとりの能力に応じて、調理や片づけなどの役割を担っている。手づくりおやつの日を設けるなど、食を楽しむ工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスに考慮した献立があり、食事量や水分量が1日を通じて確保できるよう毎日のチェックを行い、不足時には捕食等個別に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個人の状態に応じて、声掛け、見守りを行い自尊心に配慮しながら歯磨き、義歯の手入れ等に対する自立援助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 1ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを記録し、一人一人の排泄リズム、特徴を職員が把握しており、自立に向けた排せつ援助を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄チェックシートを活用したり、見守りを行ったりして、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。利用者の身体能力に応じて、気持ち良く排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が立てたバランスの良い食事を提供している。特に便秘で困っていることはないかチェックし、薬に頼る前に適度な運動、水分補給、腹部マッサージなど個々にあった便秘予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通い利用時は毎日いつでも入浴できるようにしており、1人1人の希望やタイミングに応じた支援をしている。訪問介護もできる限り希望に応じた入浴を支援できるようにしている。	利用者の希望に応じて毎日の入浴をしている。入浴を好まない方にも、少なくとも週3回は入浴してもらおうことができるよう支援している。ゆず湯等を活用するなどの工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	通い利用者で希望者にはいつでも横になり、休憩できるスペースを確保している。宿泊の就寝時間も普段家で生活しているスタイルで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が利用者別に主な既往歴、処方内容、副作用等周知できている。又研修等により介護職員へ服薬の注意事項等、確実に服薬できるよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、興味ある事、出来る事、得意な事、(洗濯たたみ、料理の材料を刻んでもらったり)等を行ってもらい、その人の出番を用意し意欲向上、喜び、気晴らしに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や天候に合わせて季節感を味わえるよう外出を支援している。個々に外出希望があれば、職員同行し、本人が望む買い物やドライブ等も支援している。	近隣の散歩や理・美容院の利用、買い物等の外出を支援している。また、季節に応じた花見や外食、初詣、地域のお祭りなどの行事に参加している。利用者一人ひとりが戸外で過ごすことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 1ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様には財布を持って頂いており、買い物等の際には自分で清算してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族の協力を得て、希望があれば、電話を掛ける介助をその都度行っている。手紙に関してはプライバシーに考慮しながら、日常利用ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての場所に窓があり、換気、採光に配慮した作りになっている。ホールは特に居心地が良い空間とあって殆ど日中ホールで過ごされ、職員と一緒に季節感もっているよう、四季折々の花を飾る等工夫している。	玄関前に色とりどりの花を植えている。メダカや絵画、雛人形等を飾るなどして季節感に配慮している。利用者は、ソファでテレビを見たり、ユニット間を自由に行き来したりして思い思いに過ごしている。ホールの周囲に玄関やトイレがあるため、利用者と職員は互いに目が届き、安心感が得られるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのいろんな箇所にソファ、椅子を置き、少人数でも談話できるよう工夫している。2階、居室も少人数でも泊まれるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔から使用している馴染みのある物等を持ち込んでもらい、出来るだけ家庭に近い形をとれるようにしている。又畳の部屋を希望される方には畳部屋を提供している。	居室は、ホールを囲むように位置している。利用者の好みに応じて和室と洋室から選ぶことができる。利用者は、家族の写真や時計、テレビ、小物等の好みものを持ち込んでおり、一人ひとりにとって居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活が出来るように、キッチン台、洗面台等を低くしたり、手すりも幅広く取り付けている。又利用者に応じてその都度椅子、ソファ、机の位置も配置換えする等工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全体が理解し、事業所の基本理念を作り、毎日の朝礼や随時のカンファレンス等で理念を踏まえながら話し合い、意識統一を図り、ケアに活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所へ散歩に出かけたり、近隣の人達と挨拶を交わすなど交流を図っている。また、地域の祭り等には積極的に参加し、事業所の催し時には地域の住民やボランティアが参加してもらい交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な行事や催しに参加しながら認知症ケアの相談に応じたり、理解が得られるように努めている。また、気軽に相談に訪問できるような窓口作りにつとめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は個別に開催し、現サービス状況の報告し、話し合いのみにとどまらず、意見や要望を出していただき、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町より保健福祉課、住民室の代表者が運営推進会に参加され、事業所の実情やケアサービスへの取り組みを伝え、情報交換を行っている。また、行事参加を勧め、職員や利用者との交流を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや職員研修を通じて職員の正しい理解を深め、利用者1人1人の行動パターンを知り、身体拘束しないケアを徹底している。また、職員間の日々の関わり方をお互いで点検して対応の徹底を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修や日々の話し合いを通じて職員の理解を深め、意識付けを図りながら、虐待が見逃ごされることがないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を通して、日々の話し合いを通して理解を深められるようにしている。また、職員や利用者、家族の目の届くところに掲示し、内容を確認出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をとって丁寧に説明し、内容を理解した上で同意が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族には手紙や電話を通して交流を図り、面会時等に気軽に話せるような雰囲気作りに留意している。また、運営推進会議への参加や他部署職員が意見を聞き入れ、運営やケアに活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会、個別に話を聞く機会を持ち意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々に実践目標を立て、それを実践し、達成できるようそれぞれが努力している。事業所では、各外部研修等を積極的に取り入れる等、資格取得を応援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外に研修には多くの職員が参加できるように努力している。また、研修後は職員会議やミーティングで発表したり、研修報告書にて全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他小規模多機能事業所への見学や他事業所との相互研修会を通して外部の同業者との交流を図り、経験をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談では、本人の話をゆっくりよく聴き利用者の不安や困っている事を理解し、生活状態を把握するよう努め、安心してよりよい信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を前提とした話をするだけでなく、家族の心情を思いやってゆっくり話を聴き、安心して次の段階の相談へつなげるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、事業所だけでは抱え込まず、他の事業所及び社会資源を出来るだけ活用し、本人にとって何が一番必要なサービスであるかを見極めて調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者に対する敬いの心を持ち、昔ながらの伝統文化暮らしの知恵について教わり、一緒に支え合いながら生活している。また、利用者の特技を活かし、個々の得意分野で力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が何でも話やすい雰囲気を作り、職員と家族間で情報の共有を図りながら、協力して一緒に支える関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問や外出支援利用時に行きつけの理髪店、美容室を利用したり、馴染みの知人や友人に会う機会を持ったりし、継続して、継続して交流が図れるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲の善し悪しや孤立感が生じないように配慮し、利用者同士の関係がうまくいくように職員が仲立ちとなって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られたり、退所された方でも行事に参加していただいたり気軽に事業所に遊びにきていただけるような雰囲気作りを普段から心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活背景やニーズを把握した上で利用者にとって何が最も良い生活課題検討し、プランに反映している。また、意思疎通が困難な方には日々の生活から真意を汲み取り、家族や周りの人に協力をいただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時、面会時、訪問時等、プライバシーに配慮しながらじ情報を得てケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が気付きの目を養いながら、利用者一人一人の生活リズムを把握し、常に情報を共有して利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、利用者、家族、必要関係者と話しあいながら特性を活かした居宅計画や介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援経過記録や介護日誌、生活のチェック表、日々の申し送りを通して情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性を活かし、本人や家族の状況やニーズの変化に対応しできる限り臨機応変なサービス支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望に応じ、公共施設を利用したり、警察や民生委員等に事業所に来所していただき交流する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に受診について説明、希望に応じて馴染みのかかりつけ医や協力医での医療が安心して受けられるよう支援している。また、協力医療機関の医師をかかりつけ医とする場合には、同意と納得を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、日々のケアや訪問介護等、介護職員と連携を密に取りながら健康管理や医療面での相談・助言対応し、かかりつけ医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院や協力医療機関や家族と連携を取り、できるだけ本人に負担がかからないような支援を行っている。また、入院時も頻りに職員が見舞いながら回復状況を把握し、退院時も速やかな退院に結びつくよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大切に、事業所でできる支援を適切に見極めながら話し合い、医療関係者、他の事業所等と連携を図りながらチームで支えていくよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所全体で殆どの職員が普通救命講習を受けており、ケガ、転倒、意識不明等の対応を熟知している。また、受講出来ない職員も常日頃マニュアル等使用し、看護師による研修等で熟知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と合同で避難訓練を実施したり、消防署の協力を得て消火訓練等を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議や催しを通して近隣の家族さんや地域住民の方々にも協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会やミーティングの折に、利用者の尊厳と権利が守られるよう話し合ったり、日々のかかわり方をリーダーや職員間で常に確認しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で職員が気付く視点を持ち、自然に自利用者が自己決定できるように心掛けたり、個々の希望が引き出せるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズム、ペースがあるため、出来るだけ何事にも時間をゆったり持つよう心掛け、希望に添った個別ケアができるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の日々の表情に気遣って声掛けし、普段着、外出時等その人らしさを大切にしたい髪型や服装、おしゃれが出きるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備をしたり、一緒にいただいたり、楽しい雰囲気作り心がけている。また、また、嗜好調査等も実施し個人の好みや食事習慣の等の把握に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスに考慮した献立があり、食事量や水分量が1日を通じて確保できるよう毎日のチェックを行い、不足時には捕食等個別に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個人の状態に応じて、声掛け、見守りを行い自尊心に配慮しながら歯磨き、義歯の手入れ等に対する自立援助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを記録し、一人一人の排泄リズム、特徴を職員が把握しており、自立に向けた排せつ援助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が立てたバランスの良い食事を提供している。特に便秘で困っていることはないかチェックし、薬に頼る前に適度な運動、水分補給、腹部マッサージなど個々にあった便秘予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通い利用時は毎日いつでも入浴できるようにしており、1人1人の希望やタイミングに応じた支援をしている。訪問介護もできる限り希望に応じた入浴を支援できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	通い利用者で希望者にはいつでも横になり、休憩できるスペースを確保している。宿泊の就寝時間も普段家で生活しているスタイルで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が利用者別に主な既往歴、処方内容、副作用等周知できている。又研修等により介護職員へ服薬の注意事項等、確実に服薬できるよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、興味ある事、出来る事、得意な事、(洗濯たたみ、料理の材料を刻んでもらったり)等を行ってもらい、その人の出番を用意し意欲向上、喜び、気晴らしに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や天候に合わせて季節感を味わえるよう外出を支援している。個々に外出希望があれば、職員同行し、本人が望む買い物やドライブ等も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームおとひめ 2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様には財布を持って頂いており、買い物等の際には自分で清算してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得て、希望があれば、電話を掛ける介助をその都度行っている。手紙に関してはプライバシーに考慮しながら、日常利用ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての場所に窓があり、換気、採光に配慮した作りになっている。ホールは特に居心地が良い空間とあって殆ど日中ホールで過ごされ、職員と一緒に季節感も持っているよう、四季折々の花を飾る等工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのいろんな箇所にソファ、椅子を置き、少人数でも談話できるよう工夫している。2階、居室も少人数でも泊まれるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔から使用している馴染みのある物等を持ち込んでもらい、出来るだけ家庭に近い形をとれるようにしている。又畳の部屋を希望される方には畳部屋を提供している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活が出来るように、キッチン台、洗面台等を低くしたり、手すりも幅広く取り付けている。又利用者に応じてその都度椅子、ソファ、机の位置も配置換えする等工夫している。		